

研究推進ニュースレター



東京未来大学
研究推進委員会発行
2017年3月24日発行

ご挨拶

研究推進委員会では、本学の研究活性化のために、皆様の研究に資する情報提供を目的として年二回「研究推進レター」を発行しております。この度、2016年度第2号を発行する運びとなりました。是非ご一読ください。

これからも、外部評価や認証評価において本学の研究活動が客観的な評価を得られるように、また学内の研究者が互いに刺激しあい情報を共有できるように、内容を整えて参りたいと思います。お気づきの点などございましたら、当委員会宛にご意見をお願いいたします。

2016年度研究推進委員長 竹内貞一

科研費ニュース

平成29(2017)年度の本学の日本学術振興会科学研究費研究計画調書の申請状況は以下の通りです。

		平成29年度			平成28年度			平成27年度		
		こども心理 (保育・教育)	こども心理 (心理)	モチベーション行動 科学部	こども心理 (保育・教育)	こども心理 (心理)	モチベーション行動 科学部	こども心理 (保育・教育)	こども心理 (心理)	モチベーション行動 科学部
基盤研究(B)	一般	0	0	0	3	0	2	2	0	1
	海外学術調査	0	0	0	0	0	0	1	0	0
基盤研究(C)	一般	6	6	2	3	1	1	3	1	2
	特設分野研究	0	0	0	0	1	1	0	0	1
挑戦的研究	開拓	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	萌芽	0	1	2	1	1	2	1	4	1
若手研究(A)		1	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究(B)		4	0	0	1	1	0	3	2	1
件数		11	7	5	8	4	6	10	7	6
合計件数		23件			18件			23件		
合計金額		100,262(千円)			124,942(千円)			141,268(千円)		

H27年度、H28年度と比較すると、件数はH27年度と同じ23件に戻しているが、金額では減少傾向にあります。件数については、基盤研究(C)一般及び若手研究(A)、(B)が増えており、こども心理学部が両専攻ともに増えた結果となります。昨年度、本欄で期待するとされた若手研究の(B)の件数増加は喜ばしいことと思います。今後とも若手研究の件数が増えることを期待するところです。平成30年度助成から審査システムが大幅に変更されます。詳しくは文科省科研費のHPをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/main5_a5.htm

平成30年度科研費スケジュールと要領の詳細はまだ発表されていませんが、例年通りですと、9月にはHPで告知されると思いますので、対象種目ごとにHPで確認してください。参考のため昨年度のスケジュールを以下に記載いたします。また、応募にあたっては、科研費の採択にも詳しい大坊学長の指導を仰ぐことをお勧めいたします。

*公募開始：平成28年9月1日

*学内期限：平成28年10月18日

*提出期限：平成28年11月7日（各審査機関への最終提出日時）

外部資金等公募情報 -学会以外の研究助成の紹介

◆公益財団法人 サントリー文化財団

日本と世界の学術・文化のさらなる発展に寄与することを目指して、5つのプログラムの研究助成を行っています。このうち3点について公募を行っています。以下概要を示しておきます。

(1) 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成

人文科学、社会科学の分野における、国際的、学際的視点からの、学術上意義の大きいグループ研究活動の振興を目的とします。専門分野、所属、国を超えた研究メンバーによる研究活動を促進するため、助成金の用途は会議費、会合費、旅費等とします。

①助成対象

人文科学、社会科学の分野における、特定の専門分野に偏らないメンバーで構成された学際的なグループ研究

②助成金額 1件につき50万円から300万円の範囲で助成

③助成期間 8月～7月

④申請期間 2017年2月6日(月)～4月10日(月)

⑤助成の決定 7月頃

(2) 地域文化活動の実践者と研究者によるグループ研究助成

地域文化活動に関する研究の振興と、これを通じて日本の地域文化活動の発展に寄与することを目的とします。なお、地域文化活動とは、芸術や伝統文化だけではなく、歴史や文化を核にしたまちづくりや地域住民を巻き込んだ文化的なイベントなども含めるものとします。

①助成対象 地域文化活動を行っている人(実践者)と研究者による共同研究

②～⑤は(1)に準ずる

(3) 若手研究者のためのチャレンジ研究助成

(2017年度未発表につき2016年度を参考までに掲示)

人文科学、社会科学の分野において、学問的な新しい地平を切り拓こうとする、意欲ある若手研究者の支援を目的とします。斬新な発想で取り組む、大きな展望を持った研究であると同時に、学術的・社会的に広がりのある研究を対象とします。

①助成対象 原則として、35歳以下の若手研究者による人文科学、社会科学分野の個人研究

②助成金額 1件につき100万円を上限として、原則申請額の満額を助成

③助成期間 4月～3月

④申請期間 10月～11月

⑤助成の決定 3月頃

(参照 <http://www.suntory.co.jp/sfnd/research/>)

◆公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団

本研究助成事業は、「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する研究及び開発に対して幅広く助成するもので、当財団の中核をなす事業です。

現在の研究助成の対象は、ゲームの分野の研究を助成する「助成研究A」、人間と遊びに関する研究一般を助成する「助成研究B」及びゲームに関する「国際交流(参加)」の3分野からなっています。

①助成研究課題 国際交流(2回目): 遊び・ゲーム等に関する国際会議等の活動に対する助成

②参加期間 平成29年6月1日～平成29年11月30日

③応募期間 平成29年1月15日～平成29年4月15日

(参照 <http://www.nakayama-zaidan.or.jp/activity-grant01.html>)

研究紹介研究紹介

インタビュー形式で外部資金を獲得した先生方の研究をご紹介します。今回は、科学研究費の若手研究（B）に採択されたこども心理学部、横地早和子先生にお話を伺いました。



Q1 横地先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

私の科研のテーマは、若手芸術家の熟達過程について縦断研究を行い、そこから得られた知見を支援プログラムに結びつけるというものです。研究のステップは大まかに言って2段階の計画になっており、最初の3年間で調査と縦断研究を実施し、そこで得られた知見を援用しながら若手の芸術家を支援するプログラム作成と実践を最終年で行う予定で進めています。期間は4年間で、現在3年目ですので、残り1年で成果を様々な形にしていかななくてはいけない段階に来ています。

科研費の使い道ですが、主に記録機器の購入や研究協力者への謝金に使用しています。具体的には、縦断調査のために記録用の機器を研究協力者に貸しだし、ライフ・ログをとるような感覚で、主に制作したものやその過程、制作のヒントになったもの、あるいは日常生活の中でふと目にとまったものや気になるものなどを機器で記録してもらっています。また、数週間に1度の頻度で協力者らに会い、インタビューを実施して詳細な情報を収集しています。そのため、科研費は機器の購入や研究協力者への謝金、インタビューデータの文字起こしに使用しています。若手研究は1人で行うものですし、心理学領域の中でも自分の研究はそれほどお金をかけずに出来る研究だと思っていますが、それでもこの研究には情報を提供してくれる協力者が必要ですので、彼らに謝金が出せるのはとてもありがたいことだと思っています。

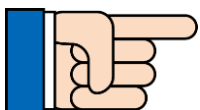
Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

若手研究のため、1人で行える現実的な範囲を考えつつ、研究としての重要性・意義が分かるような研究計画にすること、それを分かりやすく書くことに心を配りました。芸術家を対象とした研究は、とすると関心を持たれる範囲が狭く、学術領域への貢献などの意義が小さく見積もられてしまいます。そこで、本研究が「熟達」「創造性」などこれまで心理学で扱われてきた主要な研究テーマの中でどのような位置づけとなるか、また、それに伴ってこの新しい研究がどのような貢献をなすものなのかを、出来るだけ明確化しよう心がけて書きました。もう一つは、学術的知見の社会への還元を研究計画に内在化させる、ということにも心がけました。従来は、研究して、学会等で発表・公刊して終了というパターンが多かったと思いますが、今では研究成果を関連する現場で社会実践するといったこと（ワークショップなど）が、研究計画の一部に入るのが当たり前のようになっていると思います。そういった部分も意識して研究計画を立てました。

Q3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

当初の計画通りすすむことが理想的ですが、分析まで手が回らない状態になっているというのが実情です。ただ、フィールドワークを長年やってきて感じることは、データを収集しながら分析の観点が徐々に見えてくるということなので、データについて考えながら、今後は、焦点を絞っての追加データの収集と研究のまとめ、そして支援プログラムの実施に向けた準備を加速しなければと思っています。

大坊学長の「ここが採択のポイント」



同種の研究の少ないテーマで、質的検討、独創性かつ洞察を要するものです。研究は、若手の芸術家を対象としており、同一の視点での継続性(ある期間)を要します。横地先生は、専門分野の学会に加えて、学際的な認知科学を主フィールドにしていることも将来性があると採択判断されたものと思います。相応の短期的成果のみならず、継続した研究展開が期待されています。

H28 年度 東京未来大学特別研究助成研究発表会報告

平成 29 年 22 日(水) 10:30~12:00 に B225 会場にて、H28 年度東京未来大学特別研究助成研究発表会が行われました。当日は6名の発表報告が行われました。多くの先生方の参加していただき、盛況のうちに実施されたことをご報告いたします。なお、当日の発表者と発表タイトルを以下に紹介いたします。

氏名	タイトル
中和渚	Equity 達成を目指した外国籍児童の算数学習に関する研究
鈴木哲也	戦前の動物利用に関する実証的研究
西村実穂	院内保育所における保育の質保障を図る環境の整備方策の究明—安全管理に焦点をあてて—
鈴木公啓	外見が自他に及ぼす心理的・身体的影響
藤後悦子 (大橋恵・井梅由美子)	地域スポーツのコーチと保護者対象の研修プログラムの開発
平部正樹 (藤後悦子・藤本昌樹・小林寛子)	通信制高等学校における精神保健および学習動機に関する縦断的研究

なお、田中真奈美先生「ライフヒストリーによる国際社会での民族的アイデンティティの重要性と確立要因の解明」のご発表は、出張で当日の口頭発表ができなため、共有フォルダ内の資料を以って発表に代替いたしました。

発表の様子



編集後記

3月8日に順天堂大学の高野秀一先生をお迎えして「科研費対策セミナー」が開かれました。科研費審査システムが変更され、今までとは違う対策ポイントを大きく3つに分けて解説していただきました。何事も外部環境が変化に合わせた対応ができるかどうか、変化の激しい時代に生存できるかどうかということが問われていると思わせる内容でした。

今後とも大学として、科研費をのみならず、環境に合わせた様々な外部資金獲得に向けて邁進していきましょう。